

(環境) 連尺小学校 4年

連尺学区に野鳥の集まるひみつをさがろう

5月～3月

1 ねらい

4年生	単元名	連尺学区に野鳥の集まるひみつを探ろう	
子どもに育てたい力	<ul style="list-style-type: none"> ・学区で見られる野鳥に関心を持ち、観察を通して学区の自然環境やその保全に関する課題を見つけ追究することができる。(課題発見力・課題追究力) ・調べたことを絵や図を使って分かりやすくまとめ、発表することができる。(表現・発信力) ・調べ学習で得た事実から環境保全の必要性について考え、伊賀川や乙川の環境保全を中心とした学区全体の環境保護の大切さを発表会で発信することができる。(気づき・実践力) 		
身につかせたい力	評価規準	単元の評価規準	
課題発見力	①対象と関わる中で疑問を持ったたり、興味関心を持ったりする中で次の活動への思いや願いを持つことができる。	・ツバメや野鳥の観察を通して、学区に多くの野鳥が集まるひみつを調べようという意欲を持つ。	
	②(教科の学習の中や日々の生活の中で見つけた)疑問を解決したり、自分の思いや願い(課題)を達成したりする上で問題となることがらを見つけ、すすんで解決していくことができる。	・野鳥に親しむ中で、野鳥を大切にしようという気持ちを高め、そのために自分ができることを考える。	
課題追究力	対象と関わる活動力	⑤自分の思いや願いを達成するために継続的に飼育・栽培、観察・実験、調査などに取り組むことができる。	・継続的にツバメの成長を観察し、野鳥観察に取り組める。
		⑥課題や問題を解決するために必要な素材や人材を見つけ、積極的に関わろうとする。	・岡崎野鳥の会の方と積極的に交流しようとする。
	情報を収集する力	⑧知りたいこと、分からないことを身近な人に聞くことができる。	・野鳥観察会の講師の話を、積極的に聞こうとする。
		⑨図鑑や文章資料によって知りたいことを調べることができる。	・図鑑を使って、自分のお気に入りの野鳥について調べる。
	情報を分析する力	⑩調べたことや分かったことを、絵や文に表すことができる。	・発表会の資料や原稿を、自分が調べたことをもとにして作る。
⑪調べたことの中で必要なことがらを、適切な方法(デジカメ、ビデオ、パワーポイント等)で記録することができる。		・観察したことや調べたことを、スケッチを中心にして記録する。	
表現・発信力	⑮自分の思いや願いを模造紙やレポート、ビデオレポート、新聞などにまとめ、プレゼンテーションすることができる。	・発表会で、自分の思いを効果的に伝える方法を工夫する。	
気づき・実践力	⑰対象と関わる中で、生活に必要な事実に気づくことができる。	・野鳥を通して、学区に豊かな自然環境があることに気付く。	
	⑱友達のおよさや自分のよさに気付くことができる。	・友達と協力して、観察や発信を行う。	
	⑲活動の成果を話し合ったり、発表会や交流会で振り返ったりして、自分の成長に気づき、生活をよりよいものにしようとする活動していくことができる。	・野鳥観察や自然観察への興味を持ち続け、継続して観察しようとする。	

2 実践の概要

(1) ツバメのひながかわいいね（自作の観察器具で継続観察）

5月。学区のあちこちにあるツバメの巣に、今年もツバメが帰ってきた。さっそく鏡を使った観察道具を作り、観察に出かけた。材木町の河合会計事務所のビルの駐車場に多くの巣があり、いろいろな成長段階のひなを一度に見ることができた。会計事務所の方をお願いして、継続的に観察をさせていただいた。

初めて見たツバメの成長の姿に、子供たちは感激し、観察への意欲を高めていった。また、ツバメの成長観察と並行して、ツバメの糞や巣の材料を顕微鏡観察し、具体的な事実を基に、ツバメの生態を考察する授業も行った。

(2) 他の野鳥も観察したいね（野鳥の会とのタイアップでの観察会）

11月。木の葉が落ちてくると、野鳥の姿が目につくようになった。そんな時期に、野鳥の写真の子供たちに見せた。子供たちが最も心を惹きつけられたのはキレンジャクの写真だった。連尺小学校と同じ名前を持つ野鳥。子供たちのキレンジャクを見たいという気持ちがふくらんでいった。

岡崎野鳥の会の浅井会長さんをお招きし、パソコン教室で野鳥観察の基礎講座を行った。さらに、乙川の河川敷で、岡崎野鳥の会の方を講師に招き、いろいろな野鳥の名前を教えていただきながら、約1時間半の探鳥会を4回おこなった。上空に現れたオオタカが、獲物を見つけて急降下していく様子も観察できた。子供たちに強いインパクトを与えた観察となった。

(3) 名古屋野鳥観察館で、野鳥を観察しよう（連尺学区との比較）

名古屋の野鳥観察館へ出かけた。学区では見られないダイシャクシギやホウロクシギなどの大型のシギ類や、魚を捕らえるミサゴの姿を観察することができた。

ラムサール条約に登録された藤前干潟は、名古屋市民の手で守られた干潟である。ゴミの処分場とするために埋め立てられることになっていたところ、多くの市民が立ち上がりゴミ減量を実現したことで、計画が白紙撤回されて守られた経緯を持つ。子供たちは、人の手でこの野鳥が守られたことに驚き、本学区の環境も人の手で守られていることに気付くきっかけになるのではないかと期待し、連尺学区の状況と似ているのではないかという話をした。

(4) 連尺学区野鳥観察ポイント調査をしよう（学区の自然環境を考える）

子供たちは野鳥が大好きになった。窓辺に鳥がやってくると、授業もそっこのけで観察を始める。校内には、ヒヨドリ、メジロがたくさん来た。シジュウカラ、コゲラやイカルの姿もあった。どうして、こんなに野鳥がやって来るのだろうか。校内を観察してまわり、野鳥が集まるヒミツ探しを行い地図にまとめた。この活動を学区全体に広げ、連尺学区野鳥観察ポイント地図作りを行った。学区の自然環境へ、子供たちの目が向き始めた。

バードフィーダー作り、巣箱作りを行い、身近に野鳥を呼ぶ活動にも取り組んだ。大好きな野鳥を、いつまでも身近なところで見たいという思いが、環境保全を考えるきっかけになっていく。今年度は、この野鳥大好きというところまで実践をすることができた。この思いが基礎となり、5年生での伊賀川の環境学習へとつながっていくだろう。

3月。岡崎公園に、キレンジャクやヒレンジャクが渡ってきた。見たがる子供たちを、土曜日に集めて「野鳥観察散歩の会」を行っている。キレンジャク、ヒレンジャクの姿に歓声を上げる子供たち。野鳥が子供たちの心に、しっかりと根をおろしている。学区の環境保全活動への基礎ができた。



巣の中を見る道具



菅生川原での野鳥観察会



連尺学区野鳥観察ポイント地図